

2014年

寄贈品コーナー

3月1日(土) ~ 30日(日)

# 知られざる平塚のロケット開発

戦前のロケット開発の中心が、平塚にあったことはあまり知られていません。平塚の海軍火薬廠では、ダブルベース推進薬を用いたロケットモータの開発が行われ、噴進砲や桜花、三式弾などのロケット兵器として実戦に投入されました。モータ成形の要となる、圧出機を設計したのが、火薬廠の研究部に勤めていた村田勉氏です。村田氏は、糸川教授の依頼を受けた戸田康明氏の呼びかけにより、戦後のロケット開発にも参画し、ペンシルロケットからはじまった黎明期の日本の宇宙開発を支えました。

今回の展示では、村田氏のノートや噴進砲に関する資料をもとに、戦前のロケット技術と、はやぶさを打ち上げるまでに至った現代のロケットを紹介します。



桜花のモータチャンバとノズル



特 DT<sub>6</sub>, 特 FDT<sub>6</sub> 火薬の燃焼実験結果